

ペルシャ語の語強勢について

縄 田 鉄 男

現代ペルシャ語は、少数の語（下記3を参照）を除いて、『その最後の音節にアクセントを有する』
例：pe'sar <息子>， dox'tar <娘>， madre'se <学校>， pe'dar <父>。

しかし文法的接辞（接頭辞及び接尾辞）のある Inflected forms を考慮に入れると、最後の音節に強勢が来る とは云えない。又、'raftan <（彼等は）行った> と raf'tan <行くこと>， 'mardi <ある男>， と mar'di <男らしさ・雄々しさ> の如くアクセントは有意味であるが、次に述べるようにアクセントの分布は極めて規則的であり、predictable であって、有意味的ではあっても、英語などのそれと異なる。服部四郎：「音声学」（岩波書店1961）pp. 191 「トルコ語では、少しの例外を除いて、単語の最後の音節に強めがあるから、そのアクセントは音韻的にほとんど無意味である」を参照。『ペルシャ語のアクセントは次に挙げる例外を除いて、すべて、その最後の音節にある』と云える。

最後の音節にアクセントを取らない接辞、単語などは次の三つのグループに分類することが出来る。

1. Inflectional

1. 1. Stressed prefixes

a. /mi/ 動詞的接頭辞

例 'miram <（私は）行く>

'miraftam <（私は）行ったものだ。>

b. /be/ 動詞的接頭辞（命令法接続法）

'bezâr <置け>

'bezan <なぐれ>

c. /na/ 動詞的否定辞

'nasâr <置くな>

'naraftam <（私は）行かなかった>

'nemiram <（私は）行かない>（miの前ではneとなる）

d. /ma/ 動詞的否定辞（文語的）

禁止を表わす。makon <なんじするなかれ>

1. 2. Unstressed Suffixes

a. 代名詞的接尾辞

	単数	複数
一人称	am	emum
二人称	et	etun
三人称	eš	ešun
例	pe'daretun	《君のお父さん》
	ke'tâbam	《私の本》

b. 接続語的接尾辞

/O/	《と》《及び》	zan—o mard	《夫婦》
		ketâb—o qalam	《本とペン》
/ham/	《～も》	pul—ham	《お金も》
/ke /	《As for, that など》	šomâ—ke raftin ?	《君は 行ったのか？》

c. 動詞人称語尾

	単数	複数
一人称	am	im
二人称	i	in
三人称	e	an
例	'mire	《(彼)は行く》

d. 名語的接尾辞

/i/	例	'mardi	《ある男》
/râ/	(子音の後では u, o 母音の後では ru, ro . râ は書きことは)	šomâ—ru 'didam	《(私は)君を見た》
			の如く Accusative で definite なものをあらわす。
/e)	所謂《ezafe》	dust—e man	《私の友人》

2. Morphemic

2. 1. 呼格

'ahmad 普通の citation では第2音節に強勢があるが、呼びかけに用い

る時は第1音節にアクセントがうつる。

2. 2. 引用句

['nemidunam] 《私は知らない》 これを《私は知らない》とは一体どういうことですか？ という文にするには、nemidunam の最後にアクセントをおく、即ち、nemidu¹nam ciye. となる。

3. Lexical

Boyle, Palmer, Steingass, Haim, Baroomand 等による辞典には十分に記に記載されていないが、ごく少数の語は、最後の音節にアクセントをとらない。

1. 《しかし》を意味する語：

'ammâ, 'laken, 'uali, 'magar

2. 《はい yes》を意味する語

'bale, 'âri

3. その他

'guyâ 《恐らく》, 'balke 《しかし》,
šâyad 《恐らく》, 'âya 《～かどうか》,
'hâlâ 《今》, 'aknun 《今》,
'al'batte 《勿論》, ya'ni 《即ち》,
'age 《もし……》, 'inak 《それ、ごらん》 等。